



発行 明るいシニアライフを作る会「結」
責任者 古村 久美子
住所 大分市敷戸台
電話 097-504-7858
平成24年7月

明るいシニアライフをつくる会「結」つどい∞報告

開催:2012年6月9日(土) 大分市植田市民行政センターにて

参加者:古村・藤塚・秋月・村上・坂本・佐々木・川田・金丸(学生)

おおいたNPO研究所 代表山下・理事後藤・田邊病欠

- 議事
1. 古村より県外研修・視察報告
 2. 今年度の活動について
 3. おおいたNPO研究所との連携について



【ゴジカラ村】

I 報告～

〔 古村より 尼崎・京都・名古屋・東京 研修・視察報告
① 個個セブン ② ゴジカラ村 ③ コレクティブハウジング社 ④ シーズネット 〕京都

①での吉田一平さん(長久手市長)講演会について

市というセクターで働く職員に対する感想として・・・職員は病んでいるという話を伺った。これは失敗を許さない社会にも要因があるようだ。24時間のうち行政サービスに携わる者として、どれだけ市民一人一人と向かい合えるのか。また、50年間で作られた価値観を50年かけて変えていかなければならない。職員は何もするな、市民がするのをサポートすればいい。だから、もっと町に出ろ、と言っているとのこと。

*高齢者福祉サービスだけではなく、行政サービスのありかたを考えさせられる報告でした。

①の村田幸子さんや個個セブンの女性たちのお話から(講演会後の交流会)

7人でそれぞれマンションの住戸を購入。個個セブンと名付けられた共生の住まい方を報告。近居で程良い距離を保ちながら、何かの時には助け合い、本日のように毎月セミナーを開き、前向きに暮らしている。

②ではもうひとつの住まいづくりについて話を聞く。

ゴジカラ村に出向く前夜は小規模多機能・グループホーム・サービス付き高齢者住宅の入った施設(さくら一番館)へ宿泊し内容を確認した。*事業主にこういうのを作って欲しい(毎週会合)と提案し作ってもらい、全面的に借りて事業をしている。「もう一つの住まいづくりの会」では平成20年から毎月ワークショップを開きながらみんなの意見を集約していった話を伺った。古村が考え続けてきた「いろいろな人と関わって、多世代で暮らす」という共生の在り方をあらためて強くアピールしていくことを古村自身が確認した。

③ではこれまで何度かアドバイスをいただいてきた狩野さんと再会しお話を聞く。共生の住まいについての説明会の開催から始まり、本気に取り組む人に絞っていく過程を伝授頂いた。

*ここでは「住み手をどう探すのか?」という課題と同時に「住み手がこちらを発見する」という一方的な情報発信や計画ではなく、興味関心がある方と必然的に出会うことができるということに気付くことができた。

④シーズネットの岩見さんとの再会で、高齢者リタイアメント後の生き方について

「仲間づくりと、自らの役割作り」というお話を伺いあらためて共感。【老後はさびしい、同居はきびしい】国策で解決するのは難しい。だから地域で助け合う必要がある、と再認識しました。ここでも「自分の居場所をつくる」ということが確認された。

Ⅱ今年度の活動について～

ここまでの結の会の活動について、別紙資料にて振り返るとともに、今後の活動について

～古村より決意の報告～

今年は具体的な土地について進めていくことができます。「共生の住まい」の住まいについて周りの人に語れるよう、みなさん本気になりましょう。

会に参加の皆さんとの意見交換の中で

具体的なイメージをもう少し作って、今後参加者の方に住まい手としての方も含めて参加いただく。そのためには、メディアの有効活用(新聞・TV等)を仕掛けていくとともに、情報発信の強化が不可欠であると意見が出された。

これに併せて、大分県初の施設・考え方という優位性を前面に押し出し、話題性をつくる必要があります。HP等の媒体からの露出について検討された。あわせて、スケジュールを明確にしていき、コーディネーター・事務局等の役割を明確にして活動を継続していくことを話し合った。

ⅢおおいたNPO研究所との連携について～

今まで「結」の会では事務局機能を果たせる者が居なかった。関心を持つ人は多いのに組織を発展させるに至らなかった。今後活動を継続する上で、おおいたNPO研究所との連携の強化が必要と考えている。そこで、古村がおおいたNPO研究所(以降N研)の理事として活動することを説明した。

引き続き、N研代表の山下さんより組織・事業・活動についての説明があり、主力3事業のうち共生の住まいづくり事業を連携して一緒にやりましょうとの申し出があった。N研の理事であり「結」の会員として活動してきた田邊さんからのメッセージもお伝えした。

次に理事の後藤さんより、共生の住まいづくり事業の計画、スケジュールの説明があり、参加者の質疑を受けた・・・別途資料あり

「結」の活動を継続し、さらに進化させていくためには、事務局機能を強化し、コーディネーターを育成していくことが必要不可欠であると考えています。

この話し合いの後、「結」の事業を、N研の共生の住まいづくり事業の中で協力し合いながら継続し、さらに進化させていくことを参加者の皆さんと話し合い、一部会員のみなさんには、その場で、「結」の会員から、N研の賛助会員への移行を手續しました。

*会費については、共生の住まいづくり事業部門にてすべて使用されることを確認しています。

*また、「結」の名称も事業内に残すことを約束しました。

古村が皆さんからの会費の用途について、責任を持って対応します。

会員の皆様におかれましては、今後とも「結」の事業を支援していただけるよう、お願いします。

《今回記事写真》



個個セブンにて



京都にて